



1 予算編成

▼詳細はP6〜7

町の活性化につながる事業実施のため、平成21年度予算額より増額していますが、最終的な経費負担者である住民のみならずの福祉向上に役立てるよう編成しています。また、普通財産の維持管理については、昨年度同様、計画的な保守管理に努めていきます。目的や用途のない遊休地は売却するなどして維持管理費を削減し、庁舎を含む施設等の管理委託内容や公用車の維持管理・使用状況等を把握しながら経費節減を進めていきます。

2 職員配置

今後4年間で多くの退職者が出る予定ですが、補充を抑制し、適切な職員配置を行って事務機構の見直しを進めていきます。具体的には、町の基幹産業である農業専門の課を設置してその振興促進を図るとともに、税金などの滞納金に対する徴収強化体制も引き続き充実させていきます。

3 防犯・防災

今年度から福岡県が積極的に取り組んでいる暴力団排除の環境づくりについては、近隣自治体や警察と連携をとりながら、あらゆる暴力を許さないという

気運を高めていきたいと思えます。また、防災については、町の

地域防災計画に沿って、日ごろから水防資材の充実や避難体制の整備を進め、特に避難広報の中核となる防災行政無線の有効活用を心掛けていきます。また、みなさんの生命と財産を守る消防活動についても、高い防火意識を持って町内消防団員の訓練研鑽に努め、安全・安心なまちづくりを進めていきます。

4 男女共同参画

「福智町男女共同参画推進条例」が昨年6月1日に施行されました。今後は基本計画の策定や各種取り組みを行いつつ、男女が対等なパートナーとして、その個性と能力を十分に発揮できる地域社会の実現を目指します。

5 広報・広聴

広報活動の理念は「公平・正確・迅速・豊富な情報」。今後も情報提供サービスの充実を図り、どんなでも読みやすく、分かりやすい内容提供を心掛け、情報公開の一端として重要な位置づけとなるような広報活動に努めます。また、ホームページも見直しを行い、住民と行政、住民同士のコミュニケーションを図り、より多くの正確な情報を発信していきます。

6 IT基盤

今やITは日常生活において必要不可欠なものです。行政においても、新規のIT技術を取り入れた業務が増えており、ますます拡大するオンライン業務処理や行政情報提供等、情報化社会に遅れることなく、サービス提供に努めていきます。また、光ファイバーが活用できる通信網の整備を行い、最新のIT技術を取り入れた新たなサービス提供にも努めていく予定です。

7 雇用対策

昨今の厳しい雇用情勢の対策として、雇用・就職機会を創出するための基金事業が創設されています。福智町でもこの事業を活用し、求職中のかたの生活支援に役立てており、今年度も引き続き取り組みを行っていく予定です。

8 観光

平成19年9月に「第一次福智町総合計画(まちづくり計画)」を策定し、具体的施策や総合的な推進方策について、昨年9月に「まちづくり実施計画策定委員会」から答申がありました。その中で、町の目指すべき方向として、町内のさまざまな地域資源を有効活用し、観光のまちづくりを進

12 鉱害

石炭六法失効後、鉱害問題は特定鉱害地域に起因する浅所陥没などに限られています。可能性のある地域にはボーリング調査の要望を行いながら、被害者救済に尽力していきます。また、就労事業は、平成19年度から平成22年度までの4年間の暫定措置のため今年度限りで終息となります。事業終息後の雇用対策についても、周辺自治体と連携をとりながら、新しい事業の創設に向けて、国、県に働きかけていかなければならないと思っています。

13 国土調査

平成21年度は、地権者のご協力により、金田の北ヶ迫地区を法務局送付することができました。加えて、上野地区の一部(昭和54年度調査地区・福智下宮神社周辺)の再調査準備を終えたので、今年度も継続して調査に入るための事前準備を行い、現地立ち会い並びに地籍測量等の工程を予定したいと考えています。

14 入札制度

公共工事発注時の入札については、本年度も引き続き現行の制度で実施していきます。

めることが指摘されています。合併以後、東京や福岡市、北九州市で福智町物産品の販売活動を行ったり、福岡・北九州都市圏から観光客を誘致するバスツアー事業を行うなど、町のPRに努めてきました。今後も工夫改善を重ねながら継続して実施していきます。また、温泉施設や上野焼などの資源の効果的活用を図りながら、新たな観光資源を創出し、今年4月1日に合併した福智町商工会とも連携をとりながら、観光のまちとしての基盤を整えていきます。

9 農業振興

福智町の基幹産業である農業は、その振興度合が町の将来を大きく左右すると言っても過言ではありません。今年度から、農家に対する米個別所得補償モデル事業や水田活用需給力向上事業が始まりましたが、福智町には米麦大豆中心の零細農家が多く、その対応に大きな不安を抱えているのが現状です。近年の地産地消の流れに乗り、町内の農産物販売所とあわせて、農作物の需給バランスがとれるような方策を講じていかなければなりません。そのために、農業行政に特化した課を設け、後継者育成や農作物の計画的生産、消費販路開拓等の農家支援を、積極的に進めていき

11 建設

建設土木事業については、緊急性、予算規模などを考慮しながら、環境保全のための道路・歩道・河川等の整備や維持補修を行う予定です。特に歩道整備に関しては、障害者や高齢者が安心して利用できるよう、バリアフリー化などに努めていきます。



5年目の施政

誕生して5年目という節目の年を迎えた福智町。町政の礎に加え、福智らしさという個性が求められる転換期にさしかかりました。6月定例会議で浦田弘二町長が表した施政方針では、今後目指すべき町の色(カラー)が示されています。福智の原色にどのような独自の色を加えていくのか、この町で描かれる施政の彩りを見てみましょう。

